

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	寺子屋アップルキッズ			
○保護者評価実施期間	2024年11月1日 ～ 2025年10月31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数)	15
○従業者評価実施期間	2024年11月1日 ～ 2025年10月31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年11月26日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にを行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々のニーズに応じたアセスメントと計画に基づく、専門性のある支援	・自己評価ではアセスメント実施、個別支援計画の作成・共有、モニタリング、記録の徹底などに高い評価（4）が付いている。 ・保護者評価でも「こどもの特性に応じた専門性のある支援」「計画に沿った支援」「活動プログラムが固定化されない工夫」に「はい」が多く、支援内容への満足度が高い。 ・日々の記録や振り返りを通して、支援の検証・改善を行い、こどもの変化に合わせて計画を見直している。	・標準化されたアセスメントツールの活用や、評価結果の見える化を進め、保護者にも分かりやすい形で共有する。 ・職員間のケース会議・事例検討を定期化し、より専門性の高いプログラム開発につなげる。
2	保護者との日常的な連携・丁寧な説明、安全・非常時対応の体制	・自己評価では運営規程や支援プログラム・利用者負担の説明、苦情対応の体制、個人情報の取り扱い、安全管理・非常時のマニュアル整備・BCPなどがすべて高評価となっている。 ・保護者評価でも「丁寧な説明」「日頃の情報共有」「面談や子育ての助言」「事故時の連絡」「安全確保」などに「はい」が多く、信頼感が高い。 ・送迎時や面談時のこまめな声かけを通して、保護者の悩みに対して適切な助言や情報提供を行っている。	・新規利用時や年度更新時に、説明内容を小冊子やチェックリスト等に整理し、誰が説明しても同じ質で伝わる仕組みを整える。
3	清潔で安心して過ごせる環境と、個別ニーズに応じたスペースの確保	・自己評価・保護者評価ともに「生活空間の清潔さ・居心地」「活動スペースの確保」に「はい」が多く、環境面の評価が高い。 ・清掃・消毒を丁寧かつ高頻度で実施し、感染症予防や衛生管理を徹底している。 ・限られたスペースの中でもパーテーションを用いて、個別・小集団の活動スペースを工夫している。	・パーテーションや家具配置の見直しにより、児童の状態に応じた「静かなコーナー」「集中コーナー」など、現在取り組んでいる活動を進める。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流や、地域に開かれた事業運営がまだ十分とは言えない	・自己評価で「放課後児童クラブ・児童館との交流」「自立支援協議会への参加」「地域住民を招いた行事」などが他項目に比べ得点が低く、「いいえ」も見られる。 ・保護者評価でも、地域の子どもの活動機会や地域の他機関との交流に関する項目で「はい」が少なく、「どちらともいえない」「わからない」が多い。 ・人員や時間的な制約から、外部との合同企画や地域行事への参加を検討しているが、具体的な実行にまで至っていない面がある。	・自立支援協議会や地域の関係機関の会議に、可能な限り当事者が参加し、情報交換や連携の機会を増やす。 ・地域とつながることで、こどもの将来の生活の場（学校・職場・地域活動）へのスムーズな移行につながることを職員間で共通認識とし、中長期的な連携計画を立てる。
2	保護者同士の交流の場（保護者会・父母の会等）がほとんどない	・自己評価で「父母の会の活動支援・保護者会の開催による交流機会」が3点・一部「いいえ」となっており、事業所としても実施できていない現状が確認されている。 ・保護者評価では、この項目が全体で最も「はい」が少なく、「どちらともいえない」「いいえ」が多い。 ・これまで保護者から明確な要望が少なかったこともあり、職員間で検討する機会・優先度が低くなっていた。	・まずは希望を取りやすいよう、アンケートや連絡ノートで「保護者同士の交流会への関心」を確認し、ニーズに合う形（茶話会・オンライン座談会など）を検討する。
3	家族支援プログラム（ペアレントトレーニング等）や情報発信の仕組みが十分ではない	・自己評価で「家族支援プログラムの実施」「通信・HP・SNS等による情報発信」が3点で、「いいえ」も含まれている。 ・保護者評価でも家族支援プログラムや研修会の項目は「はい」が少なく、「わからない」や「どちらともいえない」が多い。 ・個別相談や送迎時の声かけは行えているが、体系的な家族支援プログラムや、全家庭に向けた定期的な情報提供の形にはなっていない。	・現在行っている個別相談・助言の内容を整理し、年数回の「ミニ講座」や「ペアレントミーティング」として、希望するご家庭があるか確認をする。